



心ほっこり、若者に広がる短歌ブーム

現代短歌が最初にブームになったのは、俵万智さんの「サラダ記念日」が一世風靡した25年前。今それをはるかにしのいで、若い世代に短歌が大きなムーブメントになり、SNSでの投稿が広がっています。

1987年から続く東洋大学の「現代学生百人一首」には、今年度、国内外から6万6千首の応募があったそうです。詠み手の多くは中学生、高校生。

「こ」と打って コロナと予測変換し スマホまでもがコロナ禍にいる(高3 東京都)

文化祭 初の対面 ミュージアム 拍手はこんなに うれしかったか(高3 東京都)

お父さん 口きかなくて ごめんなさい 思春期とやらが きてしまったの(中2 京都府)

好きな人 素直に言えず 推しという 便利な言葉で 本心隠す(高2 徳島県)

夏の空 ながるる雲の 形みて どんどうかぶ 好きな食べ物(小5 長崎県)

自身の体験や感性を表現した、みずみずしさにあふれた31文字です。ツイッターなどSNSで短い言葉で伝える文化が浸透した中で、短歌という表現方法が選択肢として取り上げられ、その手軽さと共感性が若者たちの心をとらえたといえるでしょう。

こうした動きに対し、短歌を活用した若者向けの販促キャンペーンに乗り出す企業も出てきました。三ツ矢サイダーでは、ラベルの裏に三ツ矢サイダーをテーマにしたオリジナルの短歌を掲載しており、それをQRコードに読みこんで専用サイトにアクセスすると、若者たちに人気の声優たちが短歌を詠みあげてくれる仕掛けになっています。このキャンペーン、SNSで結構な評判になっているそうです。

とかく言葉の刃が飛び交いがちなネット空間、短歌で心ほっこりしたいものです。

第一創建株式会社

代表取締役社長 田中慶太

